熊本県立球磨商業高等学校　平成２７年度学校評価表

１　学校教育目標

本校建学の精神は『誠実』・『進取』である。人類普遍の真理を第一綱領に掲げ、内面の充実を図ることを基盤に据え、人格の形成を目指す。また、積極的に時代の変化に対応する能力を育成するために第二綱領を掲げ、有為な人材の育成に努める。
「誠実」：「誠は天の道なり　誠を思うのは人に道なり」真心を持って人に接し、真面目に、素直に生きる。
「進取」： 現状に満足することなく、自ら進んで物事に取り組む。また、商業の専門高校としての特性を活かし、上級の資格取得や上級学校への進学など高い目標を定め、夢の実現に向けて日々努力する。

２　本年度の重点目標

「未来へ、みんなで一歩前へ」～地域に根ざした、生徒一人ひとりが輝く学校づくり～
を本年度の教育スローガンとし、次の５項目を重点目標とし「一歩前」を目指す。
・コミュニケーション能力の向上（あいさつ、身だしなみ）　・特性を伸ばす（資格取得、部活動）
・自ら学ぶ力をつける（読む力、思考力・判断力･表現力）　・課題への解決力（グロバール化へ向けて、ＩＣＴの活用）
・地域に根ざした学校（地域貢献、地域へのＰＲ）

３　自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評　価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校教育目標「未来へ、みんなで一歩前へ」の共有	学校の教育目標が明確で且つ理解され実践されているか	あらゆる機会を通して周知に努め､目標達成に向け取り組み､生徒の評価を８０％以上とする	各種の集会､研修等で教育目標の共有と活動の継続進展を図る	A	学校目標に対する生徒及び保護者の理解度は平均で83.9%が理解を示している｡しかしながら､職員の理解度を高める必要がある。
	本校の「強み」の明確化とその広報による入学生徒の確保	本校の「強み」が地域に浸透し、学校理解に繋がっているか	入学生徒数を定員の６０％（１２１人）以上とする	学校広報紙、ポスター、新聞広告、市町村の広報誌等で本校の「強み」を広報する 地域行事への積極的な参加を行う	C	入学者数の確保については､目標を達成することはできなかった。 しかし､受検者の意欲や中学校からの信頼という点では本校の「強み」を理解した志願者が増加している。
学力向上	生徒が主体的に取り組む授業の展開	分かる授業の展開のために、充分な創意工夫がなされているか 生徒が主体的に考える場面を設定してあるか	生徒・教師が授業を楽しむことで、生徒が必要性を感じ、意欲的に取り組む授業作りを進める 授業に関する評価項目では８割の満足度を目指す	公開授業期間を各学期１回、研究授業を各教科１名以上実施することで、教科指導力の向上と授業内容の充実を図る 校長は毎日、授業状況を巡回、指導する	B	教科の枠を超え、分かる授業の展開を目指し各学期１回の公開授業期間を設けている｡昨年度より保護者や地域へも周知を図っている。 期間中は授業を気軽に参観できるため､参観後は職員間で積極的な意見交換が行われている。
	宅習習慣の定着化	宅習に必要な学習に向き合う姿勢や意欲が備わっているか	宅習の習慣化を図り､１日平均１２０分の宅習時間の実現に取り組むことにより｢確かな学力」と「自己学習力」を身に付ける	教科の学習方法についての指導を行う 授業とリンクした効果的な課題の呈示により、宅習の習慣化を図る	B	考査前､考査中の宅習時間のいずれも学年毎の平均時間をみてもほとんどが目標を達成できていない状況である。 データを分析すると個人差が大きく､それが考査の成績にも反映されているようである。

						宅習の定着だけでなく、生徒自らが学ぶ必要性を感じ学習する力を身につけさせることが今後の課題である

キャリア教育（進路指導）	卒業後のあるべき姿を見据えた進路指導の充実	学校行事や学年の取組を通しての進路意識が向上しているか インターンシップや進路指導に主体的な取組が行われているか	３年生全員の進路決定を目指す（内定率・合格率１００％） 進路に関する生徒の満足度の向上、生徒評価８０％以上の継続を目指す	個別指導や面談の充実、進路説明会や進路開拓 ３年間を見通したキャリア教育の充実	C	学校評価では進路指導の分野では生徒と保護者ともに、高い評価であった。３年生の進路決定率は１００％になったものの、進学では複数名の生徒が不合格となった。進学面（特に看護系）学科試験を課すところでつまずく生徒が多かったのが課題である。
	上級資格の取得への意識の向上と取り組みの充実	日商簿記２級やＩＴパスポートなどの上級資格合格者数が増加しているか １級３種目以上の取得者数が増加しているか	高度資格合格者数の受験する生徒の全員合格を目指す	学習会や個別指導のさらなる充実を図る教材や資料の共有を進め、学校全体の指導力向上を図る	B	昨年度と横ばい状況であったため、資格取得のシステムを分析し検討する必要がある。アクティブラーニングを取り入れた授業を研究実践し、生徒の知識技術の深化を図るとともに、実践力を高める知識技術の習得を目指す。言語活動によるコミュニケーション能力の育成する。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	職業人としての接遇マナーの徹底規範意識の高揚が行われているか	組織の一員としての自覚を持って、生活習慣を確立し「あいさつ日本一」をめざす。	通年で登校指導を実施する。学校内外における適時・適切な生活・接遇指導を全職員の共通理解のもと実施する。服装指導強化週間を設定し、指導を実施する。	B	全職員の協力で通年の登校指導も実施し、挨拶・服装等改善が見られた。挨拶の声が小さい生徒が多少見られることは次年度の課題である 服装については生徒部・学年団の連携により徹底した指導がなされた また、強化週間の設定により成果をあげている 特別指導件数も４件と極めて少ない状況であり、生徒たちも落ち着いた生活を送っている
	交通マナーの徹底と安全教育の充実	法規の遵守及びマナー指導、鍵かけ（二重ロック）の実施が徹底それているか	交通法規を身に付け、生命の安全と認識を高める 自転車の二重ロックを徹底し、施錠率１００％を目指す	交通安全教育の実施（講話、映画）と定期点検、登校時のマナー指導及び運転実技指導を行う	B	本年度は大きな事故・違反等は無かった。バイク通学生は自動車学校の運転実技指導により事故０更新中、違反も０であった。 くま川鉄道列車補導、駅

				くま川鉄道列車補導の実施及び駅駐輪場の自転車点検の実施		駐輪場の自転車点検は実施し成果をあげた。 　自転車の二重ロック施錠率が９９％で目標達成できなかったことは、次年度の課題である。

人権教育の推進	人権について正しく理解し、自他を尊重する生徒の育成	人権教育の理念が行き渡り、積極的な取り組みが行われているか 生徒へ細心の注意を払い、人権教育に対する指導や対応ができているか	人権教育が充実し、人権感覚を養い、いじめ根絶を目指し、生徒評価８０％達成を目指す	いじめに関する実態調査の活用やＬＨＲを十二分に活用する 校内研修の充実を図る 命を大切にする心を育む指導プログラムに取り組む	A	人権ＬＨＲを毎学期行い、人権意識の向上を図った。人権教育に関する生徒評価については、83.3%と目標を達成することができ、前年度そう思うの28.1%を上回る35.2%の生徒から評価された。 今後も、生徒の人権意識が向上できる取組を行っていきたい。
	命を大切にする心を育む指導	自尊感情を高め、他者との関わりを大切にし、自己実現を図るために努力する姿勢を持っているか	教育のさまざまな場面が、自己実現への第一のステップであることを教師が発信し、生徒評価の８０％達成を目指す	自分の存在の大切さを知り、夢や目標を持ち、その実現に向けて努力することの大切さや他の人に尽くすことのすばらしさについて理解を深めるためのＬＨＲや講演の実施	A	生徒の評価は86.4%と前年度より0.3ポイント上昇した。また、目標である80%を上回ることができた。また、性教育を学年ごとに成長過程に報じて実施し、命の大切さについて学んだ。今年はハンセン病回復者の人権について、講演を行い回復者の苦労やまた、生き様について知ることができた。
いじめの防止等	全ての生徒が安心して学校生活を送り、さ動に取組むことができるよう、いじめが行われなくなるようにする指導	年２回アンケートを実施し、その結果に基づき迅速かつ適切な対応が行われているか	いじめが行われず、生徒が安心して学校内外で活動できることを目指し、生徒評価１００％達成を目指す	アンケート調査を活用し、担任の二者面談の資料として活用する。生徒の些細な兆候であっても見逃さない体制づくりを行う	B	12月のアンケートの結果5件のいじめを確認した。うち、4件は解決しているものであったが、1件は人物を特定することができず、見守っている段階である。担任による全生徒への面談を行い、生徒の様子を観察している。生徒連絡協議会を週1回開くことで。いじめについて些細なことでも見逃さない体制づくりを昨年度に引き続き、維持している。
健康管理	健康管理に対する意識の高揚及び衛生管理	健康観察及び健康指導が徹底しているか	健康管理・安全教育に対する意識の高揚を図り、学校生活を送る環境作りを	生徒保健委員会による毎朝の健康観察及び指導を行い、朝食調査	A	生徒保健委員がクラスメイトの健康状態に気を配ることができるように、健康観察は担

			進め、生徒評価８０%以上を目指す	や保健便りの定期的な発行を行う 生徒･職員のメンタルヘルスの充実を図る		任と協力して実施している 　朝食調査は毎日食べる生徒が８２％となっている。保健だよりや育友会新聞にも報告し保護者へ周知した 　健康管理に関する評価は生徒・保護者ともに９０％を超えている

教育環境整備	望ましい学習環境作り	室内・外の環境が整備されているか	環境美化に対する意識の高揚を図り、主体的な実践力を養う	日々の清掃活動の指導 美化コンクールの実施 安全点検の実施と環境整備を行う 空調設備の更新と増設を検討、実施する 学校版環境ＩＳＯ宣言の実施	B	本年度も２回美化コンクールを実施し生徒の環境美化に対する意識を高めた。しかしクラスによって点数の差が大きくなり生徒間の意識の差が大きくなっていると感じた 　また、教育環境整備の項目で生徒評価が昨年と同様７０％となり課題が残った 　各学期に安全点検を行うことにより生徒の事故防止に取り組んだ。学校版環境ＩＳＯについては職員・生徒全員で取り組むことができた
保護者・地域との連携	保護者との連携	学校行事等へ積極的に参加し行事を共有しているか また、育友会活動は充実しているか	学校行事等を通して、保護者に年１回以上学校へ来ていただく 保護者評価９０％以上をめざす 学校連絡メールの保護者登録率を上げ学校から保護者への情報伝達をより確実に行う	学年ごとに教育環境整備活動を実施するとともに、学校行事にも積極的に協力をお願いする 学校連絡メールをとおして､学校から保護者へ定期的に情報を発信する	B	球商百貨店のパーラーを新たな取組となり2回目であったが、育友会役員のみならず多くの保護者にご協力いただき、成功裡に終えることができた 　学校評価において、９６．２％の保護者が「本校に入学させて良かった」と回答している 　また学校からの連絡メールの利用状況も、A評価が３７．９％、B評価が４２．９％と学校に関心を寄せておられることが感じられる数値となった
		学校のことが、地域に理解され、信頼されているか	郷土への愛着と誇りを持つ生徒を育成することで、地域から信頼される学校づくりをめざす	地域の各種催し物･イベントやボランティア活動等に積極的に参加し、地域住民との交流を図る	B	人吉市の百円商店街などに多くの生徒職員が参加し地域に貢献できた 　特に、「人吉お城まつり」の本校企画には約９００人が参加し大好評であった

			図書館の地域開放の利用者を３０人以上とする	図書館の地域開放を実施するとともに、実施内容の広報活動に力を注ぐ		育友会総会時に図書館の地域開放について保護者に紹介し、地域の方へも紹介を行っている その結果として、延べ２０人の方に御利用いただき、幅広い蔵書構成と冊数に喜んでいただいた 今後はさらなる蔵書の充実を図り、呼びかけを続けていきたい

４　学校関係者評価

学校関係者評価については、７月に第１回目の会議を開催し本年度の重点事項を確認した。１２月に生徒・保護者及び職員三者の学校評価アンケートを実施し、そのデータをもとに設定した重点目標の達成度を学校評議員に説明し、助言並びに感想をいただいた。下記はその主なものである。

・本年度も進路指導（就職進学共に１００％内定）、各種全国大会（生徒商業研究発表大会、簿記部、英語スピーチコンテスト）、学校行事（球商百貨店）等で大きな成果が上がっている。これは、学校経営の方向性・教育目標が明確で、あらゆる教育活動において実践されている証である。また、多様な生徒に対する指導にも力が入れられている

・生徒の表情が明るく、他校生に比べて挨拶もすばらしい。いつ来ても校内美化が整っており、トイレ等のスリッパも揃えられている。

・本校生の生徒が地元に残れるよう、地元企業としても応援し、地域活性化につなげたい。

５　総合評価

①学校教育目標である「『未来へ、みんなで一歩前へ』～地域に根ざした、生徒一人ひとりが輝く学校づくり～」、地域に根ざした活動については一定の成果をあげているが、このことが入学者の増加につながっていない。

②学習指導においては、「分かる授業」を提供するべく、公開授業週間を設定し、職員だけでなく保護者へも案内した。検定指導においては、生徒のモチベーションを維持させ、高度資格に挑戦させているが、教育課程上の単位数で対応できなくなっている。

③進路指導においては、就職･進学とも１００％の内定を得た。しかしながら、基礎学力において不安を抱えている生徒もおり、複数回受験しなければならない生徒もいた。

④生徒指導においては、特別指導件数を含め、落ち着いた生活習慣が身についている。しかし、コミュニケーションがうまくはかれない生徒やＳＮＳの書き込み等で指導する機会が増えた。

⑤保護者･地域との連携においては、「人吉お城まつり」、「球磨人吉・日本遺産を巡るバスツアーの企画とツアーガイド、ｗｅｂページならびにＦＡＣＥＢＯＯＫの作成」、「球商百貨店」など地域に根ざした取組を展開できた。また、保護者会･同窓会･球商あさぎり会から学校行事に参加頂くと共に多くの支援を頂くなど、連携体制が構築できている。

⑥教育環境の整備については、地元自治体からも支援も頂くなど、生徒を取り巻く環境が改善している。

以上のとおり、生徒の生活や学習の状況、進路指導の状況、学校行事に取り組む姿勢など、総じて落ち着いた教育活動が展開できている。これらは、全ての職員、生徒が共通の理念に向かって取り組んだ成果である。

６　次年度への課題・改善方策

①本校にとって最大の課題は、入学生の確保である。平成２８年度は新設校として生徒募集を行うことになる。中学生や保護者にとって、魅力がある学校として認識してもらう必要がある。これまでの伝統を引継ぎこの地域全体の活性化に寄与できる学校づくりを目指す。

②学習指導においては、本年度の公開授業に加えて共通のテーマを設定し、他教科からでも評価し易い内容とすること。また、家庭学習時間を増やす方策として、宿題や提出物の管理を徹底すること。また、検定指導においても生徒の実

態に合わせた目標設定を行い、スモールステップで達成感を味合わせることで自己肯定感を高める。
③進路指導においては、次年度も１００％の内定を目指す。また、基礎学力向上へのモチベーションを高め、維持させるために、進路情報を的確に提供する。また、早期離職者への対策として、就業から３～１０年の卒業生を招いたディスカッション等を計画したい。
④生徒指導においては、これまで同様、生徒の基本的生活習慣を確立するため、登校指導や面接週間における情報の収集をもとに全職員で指導にあたる。コミュニケーションがうまくはかれない生徒やＳＮＳの書き込み等に対して丁寧な指導を心がけ、生徒の心に響くような指導スキルを醸成する。また、本年度から選挙年齢の引き下げに対する新たな指導について年間指導計画を作成し、適切な指導方法を確立する。
⑤保護者･地域との連携においては、昨年度の取組を継続すると共に、球商百貨店などに中学生を引き込み、本校の魅力を体験させることで伝えたい。
⑥教育環境の整備については、新校設置に向けて安心安全な環境整備を推進する。特に危険箇所の整備等には保護者等の協力を依頼し、地域の学校としての認識を深めて頂きたい。